ラウンドテーブル プレイベントアンケート結果

開催日 令和7年7月 19 日（土）

回答者数

単位[人]

	全体	内訳		
		ワーク	傍聴	不明
参加者数	58	42	16	0
回答者数	32	19	7	6
回答割合	55.2%	45.2%	43.8%	

回答内訳詳細　単位[人]

	オンライン	回答用紙	総計
グループワーク	3	16	19
傍聴	0	7	7
不明	5	1	6
合計	8	24	32

問1 ワークショップ全体の満足度

	回答者数	割合
とても満足	14	43.8%
まあ満足	17	53.1%
あまり満足ではない	0	0.0%
満足ではない	0	0.0%
未回答	1	3.1%
総計	32	

問2 満足度の理由や感想

〇他団体との交流について

・共通の思いや課題があった。違う視点からの気づきがあった。

・市内に多くの団体があり、こどものことを考えていることがよく分かった。

・参加団体の横のつながりが出来るよい機会になった。

・他団体、異種団体との意見を聞けて、交流が出来て良かった。

・横のつながりを更に深めたい。こどもを守るには各団体の横のつながりが重要。

〇ワークについて

・WG で意見をまとめるのにあと5分欲しかった。

〇参加者について

・こども（小学5年～中学生）、子育て中の主婦（無作為抽選で参加依頼）、シングルマザーの方に参加してほしい。

・今回は年齢層が高すぎる印象だった。

・学校にも今回の様子を伝え参加してほしい。

・男性の参加者が少なかった。

・行政の方も一緒に参加してほしかった。

〇今後について

・ワークショップでの意見を聞いて、意見交換をもっとしたい。具体化したい。

・参加したメンバーのみならず、市全体に波及できると良い。

・素晴らしいプレイベントだった。次にどうつなげていくのか楽しみ。

・今日活動が広くつながって子どもたちの幸せにつながることを願っている。

・市がどれだけ具体化し実行していただけるか・・・にかかっていると思う。

・行政として、もっと PR をして、討論が無駄にならない事を期待している。

・官民連携の必要を肌で感じました。

・次がどういう場になって目的をどこにむけるかによって、この集まりの本気度が分かると思った。

〇全体について

・進め方もとても良かった。

・ラウンドテーブルという考え方に共感。

・有意議な場を共有できて大変ありがたかった。

・このワークショップが何にどのぐらい活用されるのかイメージしにくかった。

問3 ワークショップは、他団体との連携やラウンドテーブルによる課題解決の可能性を感じさせる内容だったか？

	回答者数	割合
そう思う	22	68.8%
まあそう思う	9	28.1%
あまりそう思わない	1	3.1%
思わない	0	0%
総計	32	

問4 引き続きラウンドテーブルへ参加したいと思うか？

	回答者数	割合
そう思う	25	78.1%
まあそう思う	6	18.8%
あまりそう思わない	0	0%
思わない	0	0%
検討させてください	1	3.1%
総計	32	

問5 自由記入欄

〇運営について

・託児があるのが良かった。

・今回のグループ分けが良かった。いろいろな情報交換ができた。

・ワークショップの時間が適切であった。

〇こどもの意見聴取

・こどもの声が直接上げられる仕組み作りはとても大事だと思う。土台として、こども達の意見が大切にされる環境づくりが必要。

・子ども自身の声を聞く機会をつくる意見に大賛成。

・当事者である子どもたちの意見をききたい。

〇今後について

・下野市、栃木市、結城市等でこどもの居場所づくりをしているグループと交流したい。

・出た意見をぜひ活かしてほしい。

・ワークショップをした！で終わらず、形にして生かし、次へ届けることへと行く方策を今後も進めてほしい。

・教育長の子ども観、教育観をお聞きしたい。

〇感想

・こどもに関わる団体がこんなに多いとは知らずおどろいた。貴重な機会となった。ありがとうございました。

・小山市には、子どもたちのために、関わりたいと思っている方が、とてもたくさんいることを、今回改めて知ることができた。自分自身も、できることに取り組んでいきたいと思う。

〇ご意見

・利用者目線だと様々な支援の場を知ることの難しさを感じ、支援の場があると知ってもファーストコンタクトに勇気がいるため、健診等みんなが通過する場での案内や紹介ができるとよい。

・社会全体で捉えると「こども」政策に限らず、高齢者、介護政策等同じような問題があるため、多世代交流型の居場所づくりを目指したい。地域包括が高齢者に限らず全世代型にシフトしてほしい。
・複数の方から人材不足、資金不足の話があり、解決する方法は早急に考えていかないといけないと思う。
・子育てが終わった世代や子どもがいない人達にとっては、なかなか興味を持つことが難しいと思う。こどもまんなかを実現するには、その方達からの理解は必要不可欠だと思うので、そういう方々を巻き込む工夫は必要かと思う。
・「こどもまんなか」といいつつも今回に関しては支援される側の意見はなく、支援される側（こどもや養育者など）が置き去りになっているように感じた。やりたい気持ちばかりではなく、当事者が求めている支援の把握や「支援するということ」自体をきちんと確認することの必要性に思いを向けられるような機会も持てたらと思った。
・問題を抱えた子や家庭が増えた＝子どもや家庭能力が落ちたのではない、社会の問題が増えた、地域社会の能力が落ちたのだという認識を共有したい。
・長いあいだ、官に訴えても無駄と思っていましたが、このイベントに参加して，「あ？やっとこちら（民間でもがいている支援団体)に顔を向けてくれた」と，感慨深く座していました。表面は子ども達の支援という形をとっていますが、実質は．多様な子ども達の声なき声に、私達大人に内面的・外面的課題が、写し鏡のようにつきつけられたということだと理解しました。

〇市への要望

・児童センターが使用しづらく、委託団体を変えてほしい。アンケート等を定期的に実施して改善してほしい。雷が鳴ってスタッフが自分達の帰宅を心配して、子どもたちを全員施設から出して歩いて帰らされていた。
・学校内でのこどもの意見の取扱いを丁寧にしてほしい。例としては不登校関連や校則に関する内容についての声を大切にしてほしい。